

平成31年度 企画展概要(本館・分館)

展覧会名	会期	場所	概要
再興第103回院展	4月26日(金) ～5月26日(日)	本館	近代芸術の改革者・岡倉天心が創立した日本美術院が主催する院展は、日本で最も長い歴史と伝統を誇る日本画の展覧会。同人作家の新作、受賞作品、九州出身・在住作家の入選作品を一堂に展示。現代日本画の大作が今年の春は本館会場を華やかに彩る。
演劇:切り裂かれたキャンバス「マネとマネ婦人像」をめぐる	5月3日(金) ～5月6日(月)	本館	演劇と作品鑑賞を同時に楽しむ特別企画。謎に包まれた名画《マネとマネ婦人像》をめぐる推理演劇を6年ぶりに再演。公演後は当館学芸員の作品解説も実施する。
堂本印象派展	6月29日(土) ～8月18日(日)	本館	京都に生まれ、戦前戦後の日本画壇に大きな足跡を残した堂本印象(1891-1975)。京都府立堂本印象美術館の協力のもと、若き日の話題作から、戦後の社会風俗画、晩年の抽象表現に至る、多彩な画業を紹介する。
サイトウマコト展	9月14日(土) ～11月10日(日)	本館	グラフィック・デザイナーとして国際的に認められる活躍をみせ、2005年頃より本格的に絵画制作に主軸を移したアーティスト、サイトウマコトの個展。
第75回県展	11月19日(火) ～11月24日(日)	本館	日本画・洋画・彫刻・書・写真・工芸・グラフィックデザインの7部門を展示。
高橋秀+藤田桜 素敵なふたり	1月4日(土) ～2月24日(月)	本館	有機的なフォルムによる抽象表現を展開する美術家・高橋秀と、布を使ったコラージュ作品で知られる藤田桜夫妻。本展は、最新作を紹介するとともに、約60年という歳月を共に過ごしてきたふたりの創作の軌跡を追う。
高野山金剛峯寺 襖絵完成記念千住博展 日本の美を極め、世界の美を拓く	4月23日(火) ～6月16日(日)	分館	世界的に活躍する日本画家・千住博。新作の襖絵が、高野山金剛峯寺へ奉納されることを記念し、本展では奉納に先駆けて特別公開する。初期からこれまでの代表作を展覧し、画業40余年にわたる千住博の世界に迫る。
にじいろのさかな原画展 —マーカス・フィスターの世界—	7月13日(土) ～9月1日(日)	分館	世界中で愛される絵本『にじいろのさかな』は、スイスで誕生したベストセラーシリーズ。マーカス・フィスター(1960-)が描き出す絵本の世界は美しい色彩と心あたたまるストーリーが魅力。絵本原画のほか、海の中を体感できるCG映像も登場。
コレクション展I 特集 没後30年寺田政明 描く故に我あり	4月2日(金) ～7月12日(金)	本館	北九州出身の画家・寺田政明は、樹や虫、鳥など物言わぬ生きものとの対話を通じて、詩情あふれる作品を残した。没後30年を機に、油彩、版画のほか、挿絵原画、装丁本などから、その画業をたどる。
コレクション展II 特集 サイトウマコトのグラフィック	8月17日(土) ～12月28日(土)	本館	一世を風靡したグラフィック・デザイナーとしてのサイトウマコトの仕事(1980-2000s)を展覧。
コレクション展III 特集 鉄	2月22日(土) ～5月6日(水)	本館	鉄の都として発展してきた八幡、北九州をめぐる作品や、鉄が使われた作品を、資料とともに紹介。

平成31年度 企画展概要(分館・共催事業)

展覧会名	会期	場所	概要
森のささやきが聞こえます か倉本聰の仕事と点描画 展	9月9日(月) ～10月20日(日)	分館	北海道富良野を拠点に「北の国から」「優しい時間」「風のガーデン」、映画「駅 STATION」など、数多くの名作を世に送り続けてきた脚本家 倉本聰の仕事と点描画を展示。TVドラマ「北の国から」のセットを公開。
西川祐貴 北九州のキセキ展	10月27日(日) ～12月26日(木)	分館	世界的な注目を集める日本を代表する墨絵アーティスト西元祐貴の初個展。伝統的な技法に捕らわれず、大胆さと繊細さを持ち合わせたタッチで、「躍動感」、「力強さ」を追求した作品、約100点を展示。
日本の切り絵 5人のミューズ(女神)展	1月4日(土) ～3月1日(日)	分館	「切り絵」という概念を超えた独創的で魅力あふれる数多くの作品を生み出している切り絵作家たち。蒼山日菜、酒井敦美、筑紫ゆうな、柳沢京子、松原真紀の5人が織りなす、繊細で、美しく、圧倒的な迫力とメッセージ性を持った切り絵の作品展。